
初めてのプロポーズ（最終話）

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初めてのプロポーズ（最終話）

【コード】

N24180

【作者名】

ゆづ

【あらすじ】

時間は短いので良ければ読んで下さい。

それを聞いて、一瞬頭の中が真っ白になった…

「先生、それはどういう事ですか…？」

僕はその言葉の意味をすぐには理解できなかった。

「まだはつきりとは…どこまでの記憶がないのかも…」

と医者は答えると、僕に妻がいる病室を伝えた。

僕は戸惑いながら妻がいる部屋へと向かった。

部屋の前まで来ると、一呼吸おいてから僕はそつと扉を開けた。

妻は起きていた。予想外だった…、とつさにでた言葉が

「調子はどう？」 だった。

すると妻は、

「新しい先生ですか？こんな遅くまで大変ですね…お陰様で。」

そう発した妻に僕は何も言えず、部屋を後にした…。

妻の記憶からは僕の存在は消えていた…。

夜の病院の待合室は暗く、静かだった。

ベンチが見える。

僕はそこに腰を下ろすと、自分が今までにしてきた妻への裏切りを
思い返した。

罰が当たった…

今までの妻との思い出が頭の中を埋めつくす…。

もっと大切にしてあげていれば…

しばらくすると、足音が聞こえた。杉山か…。

「奥様が事故に遭われた時に持っていたようなのですが…」と僕に何やら紙袋を手渡した。

僕はその袋を開けた。

誕生日ケ・キ…。

事故の衝撃だろう、その箱は無惨にも押し潰れ、中身が飛び出していた。その袋の隅には「雅紀へ」と書かれた手紙が入っていた。

僕宛ての手紙だ。

僕はそれを開いた。

雅紀へ

お誕生日おめでとう。

雅紀の好きなチョコケ・キ。

ちよつと大きいから二人で食べきれるか心配…

色々喧嘩もするかもしれないけど、これからも仲良くしていこうね。

貴方に出会えて本当に幸せです。

恵美子より

眼の中が熱い……
泣いているのか……

そこからの行動はあまり覚えていない……
ただ気づくと、僕は妻の病室にいた。

「……僕と……結……婚して頂けませんか……？」
何を言っているの
だろう……。
身体全身が震えていた。

妻は何も言わなかった……
ただ僕の顔をじっと見つめ静かにうなづいた。
その頬に光るものが見えた。

妻にした初めてのプロポーズだった……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2418o/>

初めてのプロポーズ（最終話）

2010年10月11日02時25分発行